

論点 1：里親向け子育て支援サービスの充実【短期】

1. 現状の取組・課題

検討の視点：チーム養育による家庭養育の推進

【現状】

- ・レスパイトを必要とする里親等に対し、都では、原則として他の里親等で、レスパイトのための受入れを実施（児童相談所が必要と認めた場合に限り、児童養護施設や乳児院に再委託）
- ・共働き家庭の増加

【課題】

- ・里親間でのレスパイト受入れの限界
- ・ショートステイの資源不足

2 主な委員意見

- ・レスパイトについて、突然必要になった時に対応してもらいたい
- ・レスパイトについて、子供自身でも使えるように配慮してもらいたい
- ・近隣の地域で預ってもらえる仕組みがあるとよい
- ・学習ボランティアについて、里親が交通費だけ支払っている状況であるので、一定の謝金や支援体制を整備した上での派遣が望ましい
- ・申込プロセスの簡略化やDX化で申請の手間が減るとありがたい
- ・土日祝や夜間の申込みができると良い

論点1：里親向け子育て支援サービスの充実【短期】

3. 当面の取組の方向性

- ・ 育児家事援助者派遣事業（フォスタリング機関委託）の拡充の検討

4. 8年度に向けて引き続き検討を要する論点

- ・ 更なる支援体制充実の検討

【参考】育児に係る里親への支援

就学前

【措置費】保育所の利用

※共働き家庭への支援が主旨

- ・認可保育所：里親は保育料免除
- ・認可保育所（延長保育）：措置費で支弁（都単）
- ・認証保育所等：保育料の実費を措置費で支弁（都単）

※ 認証保育所等は、「認証保育所」「一時預かり事業」「定期利用保育事業」などの認可外保育所をいう

【措置費】幼稚園の利用

- ・就園に必要な経費は措置費で支弁

育児家事援助者派遣事業（フォスタリング機関委託※再委託可）

- ・利用時間：1回あたり2時間
- ・利用上限：育児家事あわせて1家庭あたり24時間/年

育児（保育・送迎）※里親の希望により派遣

- ・対象：原則、小学生まで

家事（日常的な掃除・調理・洗濯等の家事）

※児童相談所の判断により派遣

レスパイト・ケア

児童相談所に申し込み

利用料：無料（利用中の措置費の減額なし）

利用日数：制限なし（児相が必要性を判断）

ショートステイなどの区市町村の子育て支援事業

※区市町村により対象年齢、利用料等は異なる

小学生

【措置費】学童クラブの利用

- ・利用料実費（上限12,000/月）を措置費で支弁（都単）

学習ボランティア派遣（フォスタリング機関委託）

中学生 以上

論点2：里親・里子・実子への支援の充実【中長期】

1. 現状の取組・課題

検討の視点：チーム養育による家庭養育の推進

【現状】

- ・委託後の継続支援について、チーム養育体制の更なる充実が必要

【課題】

- ・継続的な支援のため、児童相談所・フォスティング機関が果たすべき役割は大きいですが、十分な体制が伴っていない
- ・里子・実子には様々な葛藤が生じるが、里親を通じた相談対応となり、個別の支援が行われる仕組みとはなっていない
- ・**パーマネンシー保障のための実親・親族との交流の在り方**を検討してはどうか
- ・施設からの措置変更の場合、関係性を維持する観点から、施設による継続的な支援も重要

2. 主な委員意見

- ・今後、フォスティング機関が里親支援センターへ移行した際に、**人員体制含め支援が低下しないような仕組み**が必要
- ・**里子の忠誠葛藤は、児童相談所以外の第三者に相談**できることが望ましい
- ・**パーマネンシーの範囲**を広く捉え、実親以外のキーパーソンを含めて保障することも必要
- ・施設からの措置変更の場合、**施設の機能を活かしながら**子供のパーマネンシーを保障する仕組みがあると良い
- ・支援対象は里親だけでなく、**委託児童、実子も含め家庭・養育の支援**が充実することが重要
- ・里親が勤務している**企業からの支援**が不足している

論点2：里親・里子・実子への支援の充実【中長期】

3. 当面の取組の方向性

- ・ **フォスティング機関事業の効果検証**を踏まえた**機能・役割の検討**
- ・ **企業向け里親制度説明会**を実施、制度への理解と里親への支援を求める
- ・ **里親同士の横のつながり**による支援の継続（里親サロン等）

4. 8年度に向けて引き続き検討を要する論点

- ・ **里親委託後も実親との交流を担保**できる仕組みの検討（**場所、日程含む**）
- ・ **養育者が変わる場合**のパーマネンシー保障の在り方の検討
- ・ 様々な葛藤を抱える**里子への支援の在り方**の検討
 - フォスティング機関や里親支援センターは児童相談所の親担当業務と不可分であり、里親への支援に加えて里子への支援を担う場合、**子担当との連携や情報共有方法の整理**が必要
- ・ **実子への外からの支援**については、具体的な指針や方法が確立されておらず、関わり方や担い手も含めた検討が必要
- ・ 施設から里親への措置変更後、**施設等による心理ケア等の専門的支援の継続**の検討

◆里親及びファミリーホーム養育指針◆

（養育の開始）

既に受託している子どもや実子を含む、生活を共にしている子どもへの事前の説明や働きかけを行うとともに、心の揺れ動きなどに十分に配慮する。

論点3：フォスタリング機関事業の評価を踏まえた里親支援センターの検討【中長期】

1. 現状の取組・課題

検討の視点：チーム養育による家庭養育の推進

【現状】

- ・全ての都児童相談所において、里親のリクルート、研修、委託中の支援、措置解除後の支援に至るまでの一貫した里親支援を行うフォスタリング機関事業を導入
- ・法改正で里親支援センターが「児童福祉施設」として位置づけられており、フォスタリング機関事業の実績を評価し、支援の充実のために必要な機能等について、移行を含めて検討

【課題】

- ・児童相談所との一体性をどのように確保していくべきか
- ・里親支援センターの国配置基準や現在のフォスタリング機関事業による職員配置を踏まえつつ、必要な機能を確保するための人員について精査が必要
- ・措置費収入を踏まえた収支バランスの精査が必要

2 主な委員意見

- ・**フォスタリング機関事業の内容の精査や取組の見直し**は、里親支援センターに移行する際に、一度は行うべき
- ・**夜間帯や土日等の対応**ができるとよいが、現行のフォスタリング機関の体制では難しい。集約しての体制が取れるような電話の部署を作る等、職員体制を考える中で検討すべき
- ・フォスタリング機関そのものの実績評価や、**他自治体の先行事例**（東京都内では世田谷区が設置した里親支援センター等）の分析を行った上での検討が必要

論点3：フォスティング機関事業の評価を踏まえた里親支援センターの検討【中長期】

3. 当面の取組の方向性

- ・ フォスティング機関事業の効果検証や他自治体の先行事例の分析

4. 8年度に向けて引き続き検討を要する論点

- ・ 児童相談所、フォスティング機関、施設（里親支援専門相談員等）等の役割分担を含めたチーム養育体制の見直しの検討
- ・ 里親支援センターの**実施体制や児童相談所との関係性**の検討、実施要綱等各種規定の整備
- ・ 里親支援センターの国配置基準や現在のフォスティング機関事業による職員配置を踏まえつつ、**必要な機能を確保するための人員**について精査
- ・ 措置費収入を踏まえた**収支バランス**の精査

(参考) 東京都の里親制度におけるチーム養育体制

